

編集後記

『良い看護はひとりでは芽生えるものではない。

それは研究と教育と訓練と実践の結実である。』（ナイチンゲール著作集第一巻 p491）

私たちは、教育活動をしながら研究時間を捻出し、強い研究動機と研究テーマのもとに共同で研究を進め論文にまとめますと、さらなる疑問が湧き、次の研究へと繋がっていきます。今年度は5編の論文が掲載できました。紀要には論文公表の迅速性がありますので、オリジナルな研究や追試の研究、実践報告など、研究の“旬”を逃さずに発表できるメリットがあります。紀要は本学の研究的態度の意欲的活発化を意味し、それを表出するものであります。また紀要は学術水準のバロメーターでもあります。若手研究者もベテラン研究者も共同研究などを通し、相互に研鑽し合い価値ある論文を活発に発表していただきたいと思います。研究の成果は学生の教育に必ず反映されます。「看護とは何か」を基盤に置きながら研究する熱き姿勢は学生たちのモデルとなります。本学部の研究と教育の更なる発展を期待いたします。

末筆になりましたが、お忙しい中、査読の任を快くお引き受けいただき、何回も根気強く丁寧にご指導をいただきました11名の先生方に、心より御礼申し上げます。

(文責 小林たつ子)

紀要委員会 委員

小林たつ子 (委員長)

長坂 香織

須田 由紀

原 さとみ (図書館司書)

金丸 久美 (事務局)

山梨県立大学看護学部紀要 第16巻

2014年3月25日発行

編集 山梨県立大学看護学部 紀要委員会

発行 山梨県立大学看護学部

山梨県甲府市池田一丁目6番1号

TEL (055) 253-7780